



2007年4月25日、総合生涯学習センターにて

ぼっと心に灯が点ったような、温かな気持ちに満たされる絵本がある。主人公は、働き者で割烹着の良く似合う、ぶにゆぶにゆの「ふくこおばあちゃん」。「おばあちゃんっ子だった」という作者の大西ひろみさんが、祖母をモデルに生み出した愛らしいキャラクターだ。嫁や孫たちとの日常をユーモラスに描いた絵本を通し、「優しい人間になりたいと思ってもらえたら」という思いを伝えている。

版画の絵本でデビュー

もともと漫画が好きで、京都の短大に創設されたばかりのマンガクラスに入学。そこで出会った先生に勧められ、絵本を描くようになった。卒業時に先生から言われた「10年頑張りなさい」という言葉を支えに、子育てと両立しながら創作に励んだ。

だが自宅ではなかなかはかどらず、1週間に1度、エッチング(銅版画)の先生の自宅へ通うようになった。エッチングとは、化学薬品の腐食作用を応用した版画技法だ。削ったり磨いたりプレス機にかけたりと、根気も体力も時間もいるが、A4サイズの大きな絵本づくりに挑戦した。

「本当に力作となった」という絵本『ふたととつたらびんのなか』は、第2回「ニッサン童話と絵本のグランプリ」の絵本大賞(1985年)を受賞。「苦労が分かってもらえたのかな。きっと奨励賞ですね」。輝かしいデビュー作となった。

昔は当たり前だった日常を

絵本「おばあちゃんシリーズ」は、幼い頃から一緒に住んでいた祖母のスケッチが基となった。版画ではおばあちゃんの柔らかさが表現しづらく、水彩などに転向。孫と一緒に風呂で布団を洗う『ざぶざぶざぶ』や、畑仕事をする『あつちゃんのはたけ』など自身の体験をモチーフにした絵本を創作する。インターネット上でも絵本「おばあちゃんの日」を公開している。

嫁のハルコさんは自身の母親をモデルにし

ているが、「母と私を足して2で割ったようなキャラクター。母の中身まで分からないから、結局私になっちゃう」と明かす。働き者のおふくさんとは正反対の、ちょっと怠け者で要領のいいお嫁さんだ。

「おばあちゃんは特別に何かするわけではない。生きてきた経験や優しさでそばに居るのが、ちょっとずつ変わっていく。そんなおばあちゃん存在が、温かいことやと思う。そういう物語を描いていきたい」

絵本を通して社会に還元

大好きな祖母が亡くなり、そして母親も3年間介護し、看取った。「日々の成長が喜びとなる子育てとは違って、死に向かって日に日に衰えていく。同じ日はないということを実感し、これからは人のために何かできることはないかと考えた」。そして確信したのが、「私には絵しかない」ということだ。

昨年は、大阪市教育委員会が行っている人権について考える「はーと&はーと」絵本原作コンクールの入選作品優秀賞『おばあちゃんからのおくりもの』(望月ノワ原作)の作画を担当した。「介護施設での実話で、私には書けない物語。感動的なお話の絵を描かせていただけていい経験になった」と新たな挑戦を喜ぶ。

「私の絵本にめぐり合って“温かい気持ちになった”“おばあちゃんを大切にしようと思った””と言ってもらえると、私はこのために描いてきたんだと思う。絵を描くことで喜んでもらえることは、本当に幸せだなと思います」と顔をほころばせる。

(文・江中咲紀 / 表紙写真・高島悠介)

第9回「はーと&はーと」絵本『おばあちゃんからのおくりもの』と同絵本原作コンクール「入選作品集」をセットで3,000名様にプレゼント!
(詳細はP23)

CLOSE
クローズアップ
UP

絵呼優 本びし 作起い 家こ心 すを、

プロフィール

絵本作家

おおにし

大西ひろみさん

京都精華短期大学マンガクラス卒業。1979年に第1回個展「ね 個 展」を開いて以来、大阪や東京などで原画展などを展開。97年にはCD-ROM「EGG NIGHT」を発表し、この頃からWEB絵本に取り組み。主な受賞歴は80年「第9回日本漫画家協会漫画賞」優秀賞、84年「第4回小学館童画新人大賞」入賞。95年「『あ・し・あ・と』恐竜文化賞」入賞。作品は「おにいちゃんわたし」(リポート)、「あつことおにいちゃんので」(ひかりのくに)、「おばあちゃんねこ」(鈴木出版)、「わたしのおばあちゃん」(小さな出版社)など多数。大阪市教育委員会が行っている人権について考える「はーと&はーと」絵本原作コンクール第9回作画者。日本漫画家協会会員。東大阪市在住。



<あらすじ>

ほくにマフラーをあんでくれたおばあちゃん。ほくが学校へ持って行く雑巾に名前を入れてぬってくれたおばあちゃん。たまにおこられたりしたけれど、なぜだかほくより先に涙をながしていたおばあちゃん。そんな、ほくの大好きなおばあちゃんが老人ホームへ入ることになった…。ある日、ほくはお父さんを老人ホームへ一緒に行くこととさそったけど、お父さんは「行ってもお父さんのことわからな。だろうしなあ…」、と言うだけで一緒にには行ってくれなかった。そんな中、おばあちゃんが息をひきとった。お葬式で受け取ったひとつの紙袋。その紙袋に入っていたものは…。